

日本学術会議総合工学委員会・臨床医学委員会合同  
放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会（第 25 期・第 1 回）議事要旨

1. 日時 令和 3 年 3 月 4 日（木） 10.00～12.00
2. 会場 遠隔会議（Webex 会議）
3. 参加者 神田玲子、佐治英郎、大倉典子、青木茂雄、井上優介、遠藤啓吾、神谷研二、櫻井博儀、柴田徳思、竹田敏一、多湖正夫、中嶋英雄、中野隆史、柳原情子（事務局（敬称略））
4. 議事内容
  - 1) 役員の選出  
委員長として柴田徳思氏、副委員長として中野隆史氏、幹事（2 名）として神谷研二氏、竹田敏一氏（2 名）が選ばれ、承認された。
  - 2) 議事要旨の提出に関する委員長一任について  
委員長から議事要旨の作成、承認、公開についてのガイドラインの説明があり、本分科会の議事要旨は幹事が作成することとし、承認・公開についてはガイドラインの通りとすることとした。
  - 3) 委員会委員のメールアドレスの共有について  
委員間でメールアドレスを共有することについて了解が得られた。
  - 4) 会則第 27 条について  
総合工学は大きな組織であるため、日本学術会議会則 27 条第 2 項に基づき、分科会で取りまとめた事項は総合工学委員長に連絡と取った上で、総合工学委員会の議決とされることが説明された。
  - 5) 第 25 期の活動について  
柴田委員長からまず、第 24 期での活動が述べられた。画像診断に多く用いられている  $Tc-99m$  で標識された放射性医薬品の元になる  $Mo-99$  は半減期が短いにもかかわらず全量輸入に頼っており、 $Mo-99$  を製造している研究用原子炉が経年化してシャットダウンしている研究用原子炉もある。またいくつかの研究用原子炉は近い将来シャットダウンの可能性があり、輸入に頼れない状況が予想される。このため、放射性医薬品用 RI の製造のための加速器を備えた大型研究拠点が国内に必要とされる旨の説明があった。第 25 期では放射性医薬品用 RI 製造に関する小委員会を設置して放射性医薬品用 RI の製造に関する研究活動に係る審議を行い、その結果が日本学術会議の大型計画にも対応できる可能性もあるのではないかとの説明があった。
  - 6) 小委員会の設置について  
各委員から小委員会設置に関して以下の議論があった。
    - ・日本の核医学分野の活性化が重要であり、そのためには将来に亘って放射性医薬

品のニーズを集約して、活動を実施すべきである。

- 放射性医薬品の製造、販売等に関しては各省庁の関係があるので、システムの取りまとめが必要である。
- 日本学術会議でやるので、学術的に新規性のあることを強調すべき。
- 核医学の先生の話を知ったらどうか。

以上の意見を基に委員長が設置提案書を見直すことになった。小委員会を設置することに関しては本分科会で承認された。今後、修正された設置提案書を事務局に送り、4月の幹事会にかけるとすることを目標とすることとなった。